

◆中長期滞在型セカンドライフ企画案

1. 目的

- ◆ 地域の文化、伝統、産業を内外に PR するとともに他地域からの人口流入を促進する
- ◆ 人口減少・高齢化に伴って増加する空き家・廃校の有効活用する
- ① いきなり移住を考えるのではなく、期間を限定し、地域に来る目的、滞在中にやる内容・目標、滞在中の生活、経済的問題などを明らかにすることで、参加しやすくする。移住に対するトライユースの意味合いを持たせ、もし、気に入ればそのまま移住できるようにすることで、移住のハードルを下げる。
- ② 目的(技術の習得、作品制作など)、期間、費用などを明確にした上でパッケージ化し、旅行代理店などでの募集、送り込みの定型的な仕組みとして定着させる。
- ③ 将来的に仕組みが確立すれば、フランチャイズシステムとして内外の他自治体に対し、システム、ノウハウを提供し、ロイヤリティ収入を得られるようにする。

2. 対象

(1) 目的的な研修

- ① 美術学校・専門学校などの学生・卒業生、インターンシップ
- ② I ターン等を志向する社会人
- ③ リタイヤした高齢者
- ④ 日本の文化を志向する外国人
- ⑤ 伝統工芸・地場産業などの技術習得を目指す国内外の人

(2) 一般的な体験

- ① 他地域に住む日本人
- ② 国内に住む外国人
- ③ 観光で訪れる外国人

3. 内容

(1) 目的的な研修

- ① 地場産業に、他地域から短期(1~2 日)の体験、中長期で趣味としての研修、あるいは職人としての見習、修行を希望する人員を受け入れる。
- ② 将来的には、アート、文化、さまざまな工房の集積地を目指し、志向する人間を内外から集める。
- ③ 美術関連の学校・専門学校などと提携できれば、春休み、夏休みなどでの実習・単位認定、インターンシップなどの可能性も考えられる。
- ④ 関連する事業を行う国内外の企業からの研修先としての受け入れも可能性としては考えられる。

(2) 一般的な体験

- ① 地域の産業に限らず、お祭り、郷土料理、生活歳時など日常生活体験を受け入れる。

4. 期間

(1) 目的的な研修

1 週間程度から数年間まで、1 週間、1 か月、1 年単位で選択できるようにし、体験・趣味としての技術習得、プロ養成、後継者養成などプログラムのバリエーションを幅広く設ける。

(2) 一般的な体験

数時間から 1~2 日

5. 研修受け入れの仕組み

(1) 目的的な研修

市、あるいは市とコラボレーションする企業・団体が期間と到達レベルの目標(作品としてのアウトプットや技量)、研修内容・進め方などを設定したプログラムを作成し、運用する。

(2) 一般的な体験

通常旅行のオプション、あるいは他のオプションとの組み合わせた 1~2 日コースを設定する。

6. 期間中の生活

(1) 目的的な研修

参加しやすくするために、宿泊場所、食事などの日常生活に関し、なるべく経済的負担が少なくなるような仕組みを設定する。(Cf. WWOOF)

夫婦で来て、一人だけプログラムに参加するといった場合にも、もう一人が「やることがない」という状況を避けるため、簡単な仕事や地域住民との触れ合い、観光、体験などのプログラムを用意する。

(2) 一般的な体験

状況に応じて考慮する。

7. 受け入れ職場に対する補助・優遇策

(1) 目的的な研修

特に負担が大きいと考えられる研修に充てる時間(人時 or 人日)については、受け入れ組織に対し、補助金、税制面、その他営業面等での優遇措置を設定する。

(2) 一般的な体験

状況に応じて考慮する。

8. 参加者に対する経済的な補助・優遇策

(1) 目的的な研修

特に負担が大きいと考えられる滞在費、食費に関する優遇措置、補助金などを設定する。また、時間的に柔軟性のある仕事の斡旋など、支出だけではなく、収入面も考慮する。(地域の人手不足解消にもつながる)
(Cf. WWOOF)

(2) 一般的な体験

状況に応じて考慮する。

9. プログラムのバリエーション

(1) 目的的な研修

当初は、分野を限定してスタートし、その中で到達レベルと期間のバリエーションを持たせる。一定のノウハウが蓄積された時点で、対象となる分野、プログラムを拡充する。

* 例えば、夫婦で参加しても、別々のプログラムに参加できるようにプログラムに幅を持たせる。

(2) 一般的な体験

地域の日常生活(調理と食事)、生活歳時・社会行事の一部、または農作業、伝統工芸、地場産業などの一部簡易版を設定する。

10. 募集窓口、PR 方法

市、姉妹都市・関係のある遠隔都市、観光協会、参加者を受入れる業界団体、旅行代理店などの他マスコミを活用する。

11. その他

①一つの成功事例を確実に作り、徐々にプログラムを拡充する。

② 同様な伝統工芸、産業を行う海外都市との提携を模索し、特定分野の世界的な集積都市を目指す。

③ いろいろな可能性が考えられるので、全体的な可能性をマップとして作成し、できるところから具体的なプログラムとして実施に移す。

④ 将来的には、内外の都市、団体などとのネットワーク化を進め、確立したシステム・ノウハウはフランチャイズシステムとして他の地域にも販売する。継続的にロイヤリティが得られるので、市としての税収以外の安定した収入源が確保できる。

*KITCHHIKE(キッチンハイク) <https://ja.kitchhike.com/>

*WWOOF(ウーフ)ジャパン

World Wide Opportunities on Organic Farms 「世界に広がる有機農場での機会」の頭文字

http://www.woofjapan.com/main/index.php?option=com_content&view=article&id=12&Itemid=641&lang=jp